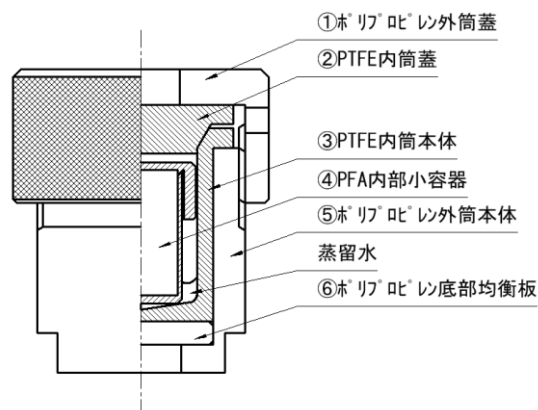


P-25/70 電子レンジ用分解容器 取扱説明書

この度は、電子レンジ用分解容器をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。
本製品は誤った使い方をされますと正しい検査結果が得られないばかりか非常に危険を伴う事がございます。この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使い下さい。又、この取扱説明書はいつでも読むことが出来るよう大切に保管願います。



■使用方法

セット方法

- ⑤に⑥、試料の入った(②③)の順に装填します。
- ④(別売)を使用する場合は、②③内に設置します。
(④の周囲に蒸留水を入れておくと、圧力の均衡が保たれ試料が③へ漏れ出にくくなります。)
- ①を手で止まるまでねじ込みます。

締め付け方法

- ⑤の底部二面カット部をバイス(別売)に固定します。
ピンレンチ(別売)使用の場合:
①の横穴にピンを引掛け、徐々にトルクがキツクなりレンチが止まるまで締め付けます。
レンチが止まってから10度くらいの間で短く増し締めして下さい。
※未使用の②③間には隙間が設けてあり、使用を繰り返す毎に密着し内圧を保持します。
※過度の締め付けは製品寿命の低下を招きます。
トルクレンチ(別売)使用の場合:
①上部の四角形穴にP型用トルクレンチアダプター(別売)を差し込みます。
トルク値を20~22N・mに設定し締め付けて下さい。

開封方法

- ※保護メガネ、耐熱・耐酸手袋を必ず着用して下さい。
※容器温度が充分下がっていることを確認してから開封作業を行って下さい。
※開封はドラフトチャンバー、グローブボックス等で行い、万一のガス噴出に充分備えて下さい。
⑤の底部二面カット部をバイス(別売)に固定し①を外して下さい。
②③は底部穴より⑥を押し上げて取り出します。

■注意・警告・厳守事項(破裂、火傷の恐れ有り!)

- 容器内の異常な圧力上昇は容器の破裂や酸の噴出を引き起こし、
重大な事故につながる恐れがあります！
- 試料は乾燥重量で100mg程度に留めて下さい。※試料、酸共に少量から試みて下さい。
 - 有機物を含む試料を取り扱う場合には、必ず予備分解してから行って下さい。
 - 反応ガスが多量に発生すると予測される場合は、換気の良い場所で予備分解を行って下さい。
予備分解: 予め試料と酸を解放下で予備的に反応させる。
 - 実験の初期段階では、マイクロ波出力200W程度、照射時間1分程度から徐々に行い、
試料の状態をそのつど確認し、最適な照射時間を見つけて下さい。
 - 連続照射時間は3分を限度とし、次回照射までは内部温度の冷却時間を充分取って下さい。
 - 過塩素酸の使用は控えるか、極少量に留めて下さい。
 - 火薬類など爆発性試料は絶対に入れないで下さい。
 - マイクロ波照射開始時は周囲に注意を促して下さい。
 - 容器温度が下がっている場合でも内圧が残っており、開封時にガスが噴出する恐れがあります。
保護メガネ、耐熱・耐酸手袋を必ず着用し、換気の良い場所で行って下さい。
 - 開封はドラフトチャンバー、グローブボックス等で行い、万一のガス噴出に充分備えて下さい。
 - 無断で修理、改造をしないで下さい。
 - ②③は消耗品です。蓋と本体の密着面に変形、傷などが生じると加熱時に内容物が漏れ出る
可能性があります。その場合は速やかに新品とお取り替え下さい。
 - 万が一、PP外筒又はPTFE内筒が膨張による変形、あるいは亀裂などの異常を生じた場合は
無理に開封せず、弊社までご一報ください。

 **三愛科学株式会社**

〒462-0034 愛知県名古屋市中区天道町5-5-3
TEL 052-915-2621 FAX 052-915-2622

info@sanai-kagaku.co.jp
<https://www.sanai-kagaku.co.jp>

2020/2改訂